

製品名: SMIF ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18023**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	75kDa

抗原情報

遺伝子名	DCP1A
別名	DCP1A; SMIF; mRNA-decapping enzyme 1A; Smad4-interacting transcriptional co-activator; Transcription factor SMIF
遺伝子 ID	55802.0
SwissProt ID	Q9NPI6
免疫原	抗血清はヒト DCP1A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

背景

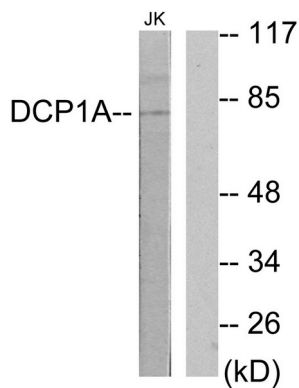
デキャッピングは、一般的な mRNA 分解および制御された mRNA 分解における重要なステップです。この遺伝子によってコードさ

れるタンパク質はデキャッピング酵素です。このタンパク質と別のデキャッピング酵素はデキャッピング複合体を形成し、ナンセンス変異を介した分解因子 hUpf1 と相互作用し、未熟終結コドンを含む mRNA にリクルートされる可能性があります。このタンパク質は TGF- β シグナル伝達経路にも関与しています。この遺伝子の選択的スプライシングは、複数の転写産物バリエーションをもたらします。[RefSeq 提供、2014 年 2 月]、機能：通常の mRNA ターンオーバーとナンセンス変異を介した mRNA 分解の両方において、mRNA の分解に必要です。mRNA 分子から 7-メチルグアニンキャップ構造を除去し、5'リン酸化 mRNA 断片と 7m-GDP を生成します。TGFB1 刺激後、標的遺伝子の転写活性化に寄与する。類似性：DCP1 ファミリーに属する。細胞内局在：プロセッシングボディ (PB) では主に細胞質に局在する。TGFB1 処理後、核内に局在する。核への移行は SMAD4 との相互作用に依存する。サブユニット：EDC3、DCP2、DDX6、EDC4/HEDLS と複合体を形成し、この複体内で EDC3 と直接相互作用する。DCP1B、UPF1、SMAD4 と結合する。XRN1 や LSM1 など、mRNA 分解に関与するタンパク質を含む細胞質複合体の一部である。PNRC2 と相互作用する。組織特異性：心臓、脳、胎盤、肺、骨格筋、肝臓、腎臓、脾臓で検出される。、

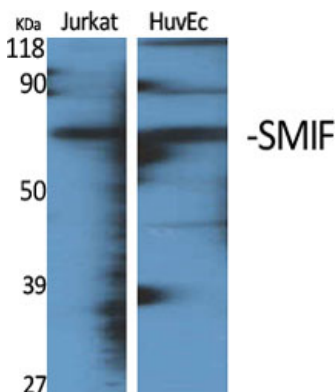
研究分野

RNA 分解

画像データ



DCP1A 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



SMIF ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析